

# 令和6年度 事業報告

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

## 要 旨

令和6年度は、当機構の事業方針に基づき、「本部事務局（長岡震災アーカイブセンターきおくみらい）」、「地域防災力センター」、「にいがたイナカレッジ」の3つの部署体制で、公益目的事業及び収益事業等を遂行した。

長岡震災アーカイブセンターきおくみらいでは、長岡市中越大震災メモリアル基金をもとに、施設の運営及び来館者・視察対応を行うとともに、中越メモリアル回廊を活用した次世代への防災教育に重点的に取り組んだ。地域防災力センター及びにいがたイナカレッジでは、継続的に受託している自治体等の委託事業に加え、新規の事業をいくつか実施することができ、自立的な運営体制と安定した財政基盤の構築をさらに進めることができた。

また、令和6年度は、新潟県中越大震災から20年目に当たり、令和5年度より開始した「新潟県中越大震災20年プロジェクト」（期間 R5.10.24～R6.10.23）を継続し、様々な関係団体と連携を図りながら各種事業（シンポジウム、フォーラム、公開講座、バスツアー、企画展示等）を遂行した。プロジェクト期間終了後もいくつかの関連事業を展開するとともに、復興プロセス研究会として行った中越大震災から20年の復興検証の活動も年度末まで継続し、成果をとりまとめることができた。

以下、令和6年度の当機構の事業について報告する。

## 1. 会 員

会員の異動数は、次のとおりである。

| 区 分    | 期首の数 | 入会 | 退会 | 資格喪失 | 増減 | 期末の数 |
|--------|------|----|----|------|----|------|
| 正会員    | 41   | 5  | 0  | 1    | 4  | 45   |
| 個人賛助会員 | 1    | 0  | 0  | 0    | 0  | 1    |
| 団体賛助会員 | 6    | 0  | 0  | 0    | 0  | 6    |

## 2. 理事会・定時総会

| 会議の通算回数<br>開催日及び場所                                  | 出席状況                                      | 議 題   |
|---|---|---|
| 令和6年度 第1回理事会<br>令和6年6月10日<br>きおくみらい／オンライン<br>(Zoom) | 理事総数 16名<br>定足数 9名<br>理事出席 11名<br>監事出席 1名 | <決議及び承認事項><br>・令和5年度 事業報告及び附属明細書の承認<br>・令和5年度 計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認<br>・職員就業規則、職員給与規則、契約職員規則の変更の承認<br>・正会員入会の承認<br>・第12回定時総会開催日時及び付議すべき事項の承認<br><報告事項><br>・正会員退会の報告 |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p>第 12 回定時総会<br/>令和 6 年 6 月 25 日<br/>きおくみらい／オンライン<br/>(Zoom)</p>       | <p>会員総数 46 名<br/>定足数 24 名<br/>正会員出席 39 名</p>            | <p>&lt;決議及び承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録署名人の選出</li> <li>・令和 5 年度 計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認</li> <li>・理事及び監事の選任の承認</li> <li>・ロータリーハウスの譲渡の承認</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年度 事業報告及び附属明細書の報告</li> </ul> |
| <p>令和 6 年度 第 2 回理事会<br/>令和 6 年 6 月 25 日<br/>きおくみらい／オンライン<br/>(Zoom)</p> | <p>理事総数 17 名<br/>定足数 9 名<br/>理事出席 13 名<br/>監事出席 2 名</p> | <p>&lt;決議及び承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長及び業務執行理事の選定の承認</li> </ul>   |
| <p>令和 6 年度 第 3 回理事会<br/>令和 7 年 3 月 13 日<br/>きおくみらい／オンライン<br/>(Zoom)</p> | <p>理事総数 16 名<br/>定足数 9 名<br/>理事出席 14 名<br/>監事出席 2 名</p> | <p>&lt;決議及び承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 7 年度 組織体制の承認</li> <li>・令和 7 年度 事業計画書及び予算書の承認</li> <li>・職員給与規則、基本給内規、育児・介護休業等に関する規則の変更の承認</li> </ul>   |

### 3. 事業報告

「公益目的事業」と「収益事業等」とに区分し、主な事業について記載する。

#### 3.1 公益目的事業の報告

##### 公1 災害・復興の経験と教訓の発信

###### (1) 震災メモリアル施設を活用した経験と教訓の発信

###### ○震災メモリアル施設運営支援事業（きおくみらい・妙見メモリアルパーク）

令和6年度のきおくみらいの年間来館者数は延べ16,237人となっており、令和5年度(14,665人)より約10%の増加となった。小中学校をはじめとする団体見学の申込みが20%(3,000人)を占めて引き続き増加傾向にあり、防災教育プログラム以外にも子ども防災未来会議の開催や、県外からの防災研修旅行の受け入れなども継続して増えている。能登半島地震から1年が経過し、県外・首都圏住民の防災意識の高まりから、低コストで手軽に学べる防災研修施設として旅行仲介業者に評価されていることなど、防災研修への需要が高まっている。

妙見メモリアルパークについては、除草作業や美化活動を3回に分けて実施し、降雪期を除いた期間の維持管理を行った。また、震災から20年目となる10月23日には献花所を設置し多くの方々を受け入れた。

###### ○新潟県中越大震災20年プロジェクト

新潟県中越大震災から20年という節目において、震災当時の出来事を思い出し、その後の歩みを振り返るとともに経験や教訓を確認することで、災害に「も」強い地域づくりと人々の暮らしづくりに貢献することを目的に、令和5年10月より「新潟県中越大震災20年プロジェクト」を展開しており、令和7年3月末をもって無事完了した。

<新潟県中越大震災20年プロジェクト（令和6年度に実施した主な事業）>

- 公式ホームページの開設・運営
- メールマガジンの配信（1年間限定・毎日17:56配信）
- 中越メモリアル回廊各施設における企画展示・記念イベント
- 中越市民防災安全大学及び防災士養成講座での特別講座
- にいがた防災ステーションとのコラボイベント
- 10.23 中越地震20年 YouTube生配信／BSNラジオ生中継
- 関係団体との協働による公開講演会、シンポジウム、セッション、特別ツアー等
- 復興プロセス研究会による中越大震災から20年復興検証 など



※赤字は当機構主催の事業

| 実施日             | 事業  | 主催                    |
|-----------------|---|-----------------------|
| 4月～             | 防災かべ新聞コンクール / 防災文化祭 作品募集!   | ふるさと未来創造堂             |
| 4月27～28日        | 令和6年能登半島地震 建物・家並みと暮らしを守る相談会   | たてもの修繕支援ネットワーク        |
| 4月27日～<br>5月6日  | 防災ジャングルGW そなえてうきうきゴールデンウイーク   | そなえ館                  |
| 5月18日           | 歩いて作って遊んで 防災ピクニック ～あそびから学ぶ防災～   | 川口きずな館・<br>よりみち街道中越   |
| 5月29日           | にいがた防災ステーション キックオフフォーラム   | 当機構                   |
| 5月30日           | 新潟日報(朝刊)メルマガ配信中の記事掲載  | 新潟日报社                 |
| 5月31日           | 中越大震災20年の復興と感謝 未来への記憶   | おらたる                  |
| 6月10日           | 新潟県中越大震災20年プロジェクト 第4回実行委員会  | 当機構                   |
| 6月15日           | 防災キャンドル講座   | そなえ館                  |
| 6月22日           | 知って楽しい長岡 山古志地域の歴史と文化を学ぶ 第1回座学   | まちなかキャンパス長岡           |
| 6月23日           | 新潟地震60年・新潟県中越地震20年公開シンポジウム<br>そなえる・すくう・たちあがる                          | 新潟歴史資料救済ネットワーク        |
| 6月25日           | 中越大震災 復興評価・支援アドバイザリー会議(第1回)   | 当機構                   |
| 6月28日           | 中越地震復興20年 祈念ドキュメンタリー映画<br>長岡大花火 ～打ち上げ、開始でございます～                       | 夢プロジェクト               |
| 6月29日           | 防災・健康ウオーク in 新潟 第13回湊まちウオーク   | 新潟県ウオーキング協会           |
| 7月2日            | にいがた防災ステーション 海外展開セミナー   | 新潟県・JICA 東京           |
| 7月6日            | 知って楽しい長岡 山古志地域の歴史と文化を学ぶ 第2回座学   | まちなかキャンパス長岡           |
| 7月7日            | 防災クイズ&ゲーム Day2024 in そなエリア東京  | 防災教育普及協会              |
| 7月9日            | あなたもなれちゃう! デジタル村民 -山古志の挑戦-  | まちなかキャンパス長岡           |
| 7月11日～<br>8月7日  | 展示 救え! 山古志の文化財 ～民具と古文書が語るもの～  | 長岡市科学博物館              |
| 7月15日           | 体験型防災デイキャンプ   | そなえ館                  |
| 7月18日           | にいがた防災ステーション 第1回オンライン交流会  | 当機構                   |
| 7月24日           | 企業向けBCP策定セミナー 新潟会場  | 新潟県・当機構               |
| 8月3日～<br>9月29日  | 2024年度防災教育コーディネーター養成塾   | 当機構                   |
| 8月8日            | ほくりく防災・減災考座2024   | 北陸地域づくり協会             |
| 8月10日～<br>9月1日  | 中越大震災20年事業特別展示 震災20年の歩み   | そなえ館                  |
| 8月19日           | にいがた防災ステーション 能登半島地震被災地視察ツアー   | 新潟県・当機構               |
| 8月24～25日        | 日本災害食学会2024年度学術大会<br>市民公開講座・シンポジウム「中越地震20年:新潟から全国へ、<br>さらに世界へ」(8月25日) | 日本災害食学会               |
| 8月～10月          | 錦鯉 市の魚制定10周年記念プロモーション   | 長岡市                   |
| 8月26日           | 企業向けBCP策定セミナー 県央会場  | 新潟県・当機構               |
| 8月30日           | 第12回首都防災ウイーク シンポジウム<br>中越地震20年に学ぶ防災教育とその課題                            | 日本危機管理防災学会            |
| 9月7日            | 第19期中越市民防災安全大学 特別講座 無料公開  | 当機構                   |
| 9月9日～<br>12月7日  | 長岡市ガバメントクラウドファンディング 中越大震災から20年 つ<br>たえる・つながる・そなえる                     | 長岡市                   |
| 9月13日           | 地震災害研修会   | 新潟県地すべり防止工事<br>士会中越支部 |
| 9月16日           | 雪氷研究大会(2024・長岡) 公開講演会「新潟県中越大震災から<br>20年 そのとき雪氷の研究者・技術者はどう動いたか」        | 雪氷研究大会実行委員会<br>・当機構   |
| 9月20日           | 中越メモリアル回廊復興バスツアー  | 当機構                   |
| 9月23日～<br>11月9日 | 中越大震災20年事業「オチヤホタル」<br>～OJIYA HOTARU Illumination 感謝と希望のイルミネーション～      | オチヤホタル実行委員会           |
| 9月26日           | 企業向けBCP策定セミナー 長岡会場  | 新潟県・当機構               |
| 9月27日           | 地学講座 中越地震と能登半島地震に学ぶ<br>講演「新潟県中越地震を振り返る」                               | 新潟県越路大地の会             |

|                  |  |                       |
|------------------|--|-----------------------|
| 9月28日            | 多文化共生社会における防災の課題と市民に求められる視点  | 地球広場                  |
| 9月28～29日         | みんなの防災フェア 2024   | TeNY テレビ新潟            |
| 10月3日            | にいがた防災ステーション 自治体向け防災セミナー   | 新潟県・当機構               |
| 10月5日            | 米百俵まつり ときを超え、一日限りの長岡藩  | 米百俵まつり実行委員会           |
| 10月5日～<br>12月8日  | 石巻市震災遺構門脇小学校企画展「新潟県中越地震から20年<br>-中越メモリアル回廊が伝えてきたこと-」                           | 石巻市震災遺構門脇小学校          |
| 10月6日            | 第34回土木フェスティバル  | 長岡市                   |
| 10月6日            | 地学講座 中越地震と能登半島地震に学ぶ 野外観察会<br>「中越地震20年、被害からの復旧・復興状況から防災を考える」                    | 新潟県越路大地の会             |
| 10月8日～<br>11月16日 | 長岡市災害復興文庫展 2024 中越大震災20年と歴史文書館   | 長岡市歴史文書館              |
| 10月12日           | れきぶん講演会 復興とは何か ～中越と福島 of 災害伝承の現場<br>で考えたこと～                                    | 長岡市歴史文書館              |
| 10月12日           | 防災・健康ウオーク in 長岡 越後長岡歴史ウオーク   | 新潟県ウオーキング協会           |
| 10月12～24日        | 中越大震災20年事業特別展示<br>「つなぐ ～震災の記憶と絆を未来へ～」  | そなえ館                  |
| 10月15日           | 企業向けBCP策定セミナー 上越会場   | 新潟県・当機構               |
| 10月18日           | 地学講座 中越地震と能登半島地震に学ぶ<br>講演「地震を知って地震に備える、近年発生した地震から学ぶこと」                         | 新潟県越路大地の会             |
| 10月18日～<br>11月4日 | やまあかり -山古志のライトアップされた幻想的な棚田・棚池を<br>ウオーキング-                                      | 山古志観光協会               |
| 10月19日           | ぼうさいこくたい 2024 in 熊本 災害伝承ミュージアム・セッション<br>熊本8年、中越20年、阪神・淡路30年。今描くビジョンの共有         | 人と未来防災未来センター          |
| 10月19～23日        | ブラックアウト大作戦 市民チャレンジ! もしもの停電を体験しよう   | 長岡技科大・当機構             |
| 10月19日           | 中越大震災20年フォーラム 記憶を明日へ   | 長岡市・新潟日报社             |
| 10月20日           | 中越大震災復興20年企画 能登半島地震チャリティコンサート  | おらたる                  |
| 10月20日           | 中越大震災復興20年 おかげ様感謝デー<br>追悼と感謝の想いを川口から届けよう!                                      | 震災復興おかげ様感謝<br>デー実行委員会 |
| 10月22日           | 地震だ! そのときあなたは? カードゲームで「そなえ」を考える  | まちなかキャンパス長岡           |
| 10月23日           | 中越大震災20周年行事 ～私たちの10.23を忘れない～<br>追悼式典・献花台                                       | 長岡市                   |
| 10月23日           | 妙見メモリアルパーク 10.23 献花所   | 当機構                   |
| 10月23日           | 中越大震災 復興評価・支援アドバイザリー会議(第2回)  | 当機構                   |
| 10月23日           | BSN ラジオ 中越メモリアル回廊 リレー中継  | BSN 新潟放送・当機構          |
| 10月23日           | YouTube 特別番組生配信 新潟県中越地震の発生から20年 その<br>記録と記憶、教訓を伝える                             | BSN 新潟放送・当機構          |
| 10月23日           | 10.23「中越大震災の日」追悼のつどい   | そなえ館・小千谷市             |
| 10月23日           | おぢや防災塾 ～Remember 10.23～ 防災教育講演会  | 小千谷市教育委員会             |
| 10月23日           | 「中越大震災の日」給食 / 小千谷市立庄中学校・総合支援学校   | 小千谷市教育委員会             |
| 10月23日           | 中越大震災から20年... 10.23 追悼式 私たちの灯り   | 震災復興おかげ様感謝<br>デー実行委員会 |
| 10月25日           | 地学講座 中越地震と能登半島地震に学ぶ<br>講演「地震による液状化の被害と現地調査」                                    | 新潟県越路大地の会             |
| 10月26日           | 砂防講座 長岡市山古志(旧山古志村)を襲った土砂災害、そして<br>復興とその後                                       | 湯沢砂防事務所               |
| 10月27日           | 第71回長岡市錦鯉品評会   | 長岡市錦鯉養殖組合             |
| 10月27日           | 小千谷市総合防災訓練   | 小千谷市                  |
| 11月8～10日         | 日本災害復興学会 2024年度長岡大会<br>公開シンポジウム 第1部 復興まちづくりサミット/第2部 中越地<br>震20年記念シンポジウム(11月9日) | 日本災害復興学会<br>・当機構      |
| 11月9～10日         | 日本災害情報学会第29回学会大会   | 日本災害情報学会              |
| 11月9日～<br>12月5日  | 防災士養成講座 加茂会場/村上会場/新潟会場/柏崎会場/<br>新発田会場  | 当機構                   |
| 12月7日            | こども防災未来会議・防災かべ新聞コンクール表彰式   | ふるさと未来創造堂             |
| 2025年<br>3月17日   | 中越大震災21年 記憶から未来へ! 大地震はまたやってくる!<br>そして気候変動は不連続に訪れる!?                            | 地域ルネッサンス創造機構          |

## (2) 生きる力を育む防災教育の推進

### ○青少年の防災教育支援事業（メモリアル施設見学バス代補助）

令和6年度の震災メモリアル施設見学にかかる交通費補助プログラムでは、前年度に続き、学校ごとの目的や理解進度などに応じて柔軟に研修計画をコーディネートし、過去最高となる65件の研修実績（来訪）のほか、48回に及ぶ出張講座に対応した。学校・団体側の需要に合わせたプログラム設計を行い、多くの学校・団体より活用いただいた。中越大震災から20年の節目を越え、次の世代に向けた教訓の発信と伝承活動を続けながら地域の宝の紹介などを通じて郷土の誇りを学ぶプログラムとして展開した。中越大震災の教訓をこれから起こる災害にどう活かしていくのか、子どもたちとともに考える機会を提供することを目的にプログラムを構成し、学校、子ども会、自治会の親子行事など、利用者から高い評価をいただいた。

学校以外の団体についても、地域活動に防災を取り入れたいコミュニティセンターからの申し込みが増加しており、着実に実績を積み重ねている。



校外学習に向けた導入講座（小学校・出張講座）



学習進度・目的に応じた出張講座（中学生）



展示室におけるボランティア・人的支援の学び



災害食講座などの実践的な研修（親子）

### ○青少年の防災教育支援事業（こども防災未来会議@2024 及び防災かべ新聞の展示）

令和6年度も、NPO法人ふるさと未来創造堂との連携のもと、新潟県内の小中学校等を対象に「こども防災未来会議2024」及び「防災かべ新聞コンクール」を開催した。かべ新聞コンクールでは県内の小中学校から82点の作品応募をいただき、きおくみらい隣接の展示スペースに加え、県内各地で作品展示を行った。こども防災未来会議の当日は、ICTツールを活用したオンライン参加を併用し、多くの子ども達が作品発表に参加したほか、参加校同士の交流の機会を設け、新潟県中越大震災をはじめ、防災に対する「わがこと感」を高め、知識を深める活動に寄与した。



### (3) 被災者・被災地支援

当機構は、災害支援のためのゆるやかな民間ネットワークである「チーム中越」の事務局を担っており、定期的な会合や勉強会等を開催している。様々な専門分野の協働団体と連携することで、それぞれの団体が単独ではできないことでも、協働することで漏れのない支援の実現を目指している。

令和 6 年能登半島地震の被災地支援活動を昨年度から継続しており、震災当初から輪島市の番場崎商店街エリアや仮設住宅、輪島市災害ボランティアセンターを通じた復旧・復興支援活動を実施してきた。

12月10日には、チーム中越の勉強会として、ピースボート災害支援センターを講師として招き、災害支援調整窓口の機能や課題などを知る機会を設けた。これをきっかけとして、今後長岡市で大規模災害が発生した際に、行政では対応しきれない炊き出しなどの外部支援の調整をチーム中越で担うことも視野に入れ、体制づくりを進めたい。

また、チーム中越に集まった寄付金（能登半島地震活動支援金）を財源として、チーム中越の構成団体が実施する支援プロジェクトへの助成金を配分した（1プロジェクトにつき上限10万円）。災害ボランティア活動、避難所や仮設住宅での足湯、仮設住宅の椅子やテーブルづくり、イベントの補助など、多様な活動が展開され、被災地のニーズや状況に応じて柔軟な支援を行うことができた。



活動支援金 募金活動



茶話会の開催（輪島市にて）



出張子ども食堂（輪島市にて）



水害ボランティア活動（輪島市にて）

## 公2 災害に強い地域づくり

### (1) 防災人材育成

#### ○中越市民防災安全大学

19期を迎えた中越市民防災安全大学は、中越大震災20年プロジェクト特別講座として、市民参加可能な公開講座を開設し、延べ6日間にわたって開講した。講座カリキュラムでは、新潟県内で活躍する講師陣を中心に編成し、続発する災害対応の経験と教訓を活かした最新の防災技術、復興伝承や次世代の防災学習に関する講座を行った。また、特別公開講座では20年前の災害直後から活躍された学識者、研究者らを招いて、当時の出来事、復興への想いを振り返りながら20年が経過した現在の中越地域について活発な意見交換が行われた。

今期は55名の受講申込のほか、自己研鑽を目的とする再履修者1名を受け入れた。9月7日に実施した公開講座には受講生の他に15名が聴講した。講座は9月8日に最終日を迎え、新たに53名が中越市民防災安全士に加わった。第1期からの修了者は延べ959名となった。

受講申し込みは6月1日の市報掲載から開始し、スマートフォンなどオンラインからの申込みが9割を超えるなど、インターネットを活用した受付体制の充実により効率化が進んだ。

受講者の地域別では長岡市民が7割以上を占め、次いで新潟市、三条市、見附市、燕市、出雲崎町となっている。男女比では、女性が3割(16人)を占め、女性の参加が増加していることも特徴の一つとなっている。年代別にみると40代と60代の方が多く参加されており、幅広い世代から防災への関心が寄せられていることがわかる。

なお、受講生の任意で最終日に実施している「防災士資格取得試験」は、受講者55名中48名が受験し、47名が新たに防災士の資格を取得した。

#### ○地域別

| 長岡市            | 新潟市           | 三条市          | 見附市          | 燕市           | 出雲崎町         | 県外           | 合計  |
|----------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----|
| 39人<br>(70.9%) | 8人<br>(14.5%) | 3人<br>(5.4%) | 1人<br>(1.8%) | 1人<br>(1.8%) | 1人<br>(1.8%) | 2人<br>(3.6%) | 55人 |

#### ○年代別

| 10代          | 20代          | 30代          | 40代            | 50代           | 60代            | 70代           | 合計  |
|--------------|--------------|--------------|----------------|---------------|----------------|---------------|-----|
| 1人<br>(3.6%) | 3人<br>(5.4%) | 4人<br>(7.2%) | 16人<br>(29.1%) | 7人<br>(12.7%) | 17人<br>(30.9%) | 7人<br>(12.7%) | 55人 |



ワークショップ



災害食講座



特別公開講座

### ○新潟県防災リーダー育成事業【新潟県委託】

本事業は、地域の防災活動における現状と課題を踏まえ、地域の防災活動の担い手でもある自主防災組織等に指導・助言を行う「新潟県防災リーダー」（以下、防災リーダーという）を養成するとともに、養成後の地域における実践を支援し、地域の防災活動の充実・底上げを図ることを目的に実施したものである。

防災リーダー養成講座は長岡会場 7 月 13 日（10 名）、上越会場 7 月 20 日（24 名）、新潟会場 8 月 17 日（24 名）の 3 会場で開催し、受講生は「講師としての心構えや姿勢・スキル」や「地震から身を守るための専門知識」などを学んだ。

また、防災リーダーを対象としたキャリアアップ講座を開催（12 月 1 日、24 名出席）。防災リーダーからの能登半島地震の支援活動（新潟市西区、輪島市）報告をもとに、講師活動に活かせるエピソードを発見するワークショップ及び各地域の講師活動に関する意見交換を行った。

市町村へのヒアリングでは、防災リーダーの育成が進められていない五泉市、田上町、新発田市、阿賀野市の 4 市町に対して、現状や課題等を把握するためのヒアリングを実施した。



防災リーダー養成講座（上越会場）



キャリアアップ講座

### ○防災士等フォローアップ業務【田上町委託】

本業務は、防災士や地区役員、日赤奉仕団など、地域における避難行動・避難所運営に関わる可能性のある方々を対象に、総合防災訓練と連動した防災士等フォローアップ研修会を実施したものである。

第 1 回研修会では、総合防災訓練における水害・土砂災害からの避難行動及び安否確認事項の解説を行うとともに、ワークショップを通して訓練実施までに地域で改善すべき点を検討していただいた。

第 2 回研修会では、総合防災訓練で実施された各訓練（避難行動、安否確認、避難所開設）を振り返り、訓練を通して明らかとなった課題や気づきを共有した。さらに、ワークショップ形式で次年度に向けた改善点の検討を行い、各地域の防災力向上に繋げる機会とした。



第 2 回研修会

## (2) 地域防災力向上支援

### ①自治体の防災施策サポート事業

#### ○地域防災まちづくりフォローアップ事業【新潟県委託】

本事業は、県内市町村が抱える自主防災組織活動等に関する課題の解決や事業のフォローアップ等を行うことにより、地域防災力の向上を図ることを目的に実施したものである。

アドバイザー派遣事業としては、上越市、聖籠町、出雲崎町、妙高市の4市町の取組をサポートした。上越市では「避難所運営体制整備研修」、聖籠町では「チェックシートを活用した防災訓練」、出雲崎町では「出雲崎町防災士会のスキルアップ」、妙高市では「避難所運営訓練の自走化」を主題とし、各市の担当者から課題等を聞き取りながら、具体的な取組をバックアップした。

テーマ別意見交換会としては、県内市町村職員を対象に、「避難所運營業務について」及び「避難所運営体制整備に関する自治体の取組事例発表」の2つをテーマとして開催した。

#### ○企業・学校連携 防災啓発セミナー【新潟県委託】

本業務は、若い世代や学生の防災意識の向上を図るため、県内の企業・学校と連携した「防災啓発セミナー」を実施したものである（当機構職員を講師として派遣）。

令和6年度は、国際総合学園ペットワールド専門学校、JAPANサッカーカレッジ、明倫短期大学、事業創造大学院大学、新潟県立大学、一正蒲鉾株式会社において合計9回実施し、災害時のリスクと対策の紹介、災害対応の実例等を踏まえた講義、ゲーム形式で備えるべき防災グッズを考えるグループワークなどを行った。

#### ○地域防災活動支援事業【長岡市委託】

本事業は、水害時に地域の浸水深の情報を基に適切な避難行動を取ってもらうことを目的に、長岡市宝町地内及び中瀬町地内を対象に、「長岡市洪水ハザードマップ（令和2年6月改訂）」に基づく浸水深を表示した標識を設置したものである。

標識設置に際して、隣接した宝町・中瀬町で地域住民の意見を反映するためのワークショップを複数回実施し、その結果に基づいて標識のデザインや設置場所を決めた。また、草生津・中島6丁目地域においては、長岡市のアドバイザー派遣制度を活用して地域住民と話し合いを行った経緯もあり、本事業では町内会役員等と協議して標識の設置箇所を決定した。最終的に、宝町地内に計28か所、中瀬町地内には12か所、草生津地内10か所、中島6丁目地内10か所、計60か所に標識を設置することができた。



ワークショップ



標識（防災サイン）の設置

## ○豪雪地帯安全確保緊急対策交付金に関する事業【新潟県・長岡市・十日町市委託】

令和3年12月、国では豪雪地帯において除排雪時の死傷事故が多発していることを踏まえ、民地の除排雪作業時等の死傷事故の防止のために、「豪雪地帯安全確保緊急対策交付金」を創設した。補助対象事業として、「地域安全克雪方針策定事業（補助率10/10）」と「安全克雪事業（補助率1/2）」があり、事業実施主体は豪雪地帯をその区域に含む市町村及び道府県である。

令和6年度は、昨年度からの継続として、新潟県、長岡市、十日町市から本交付金にかかる業務の委託を受けた。

新潟県からは「雪下ろし事業者等の広域応援体制の整備に関する業務」を受託した。これは豪雪時など、雪下ろしの需要が急激に増加した際に、他市町村から事業者等が応援できる体制を整備することで、住民が安全に安心して暮らすことができる環境の実現を目指すものである。十日町市と小千谷市を対象地域として、地元事業者及び応援事業者によるワーキンググループ会議を開催し、雪下ろし広域応援体制整備に向けた課題の整理及び雪下ろし広域応援スキームの検討を行うとともに、広域応援による試行的な雪下ろし実践活動を行った。



広域応援による試行的な雪下ろし実践活動（新潟県）

長岡市からは昨年度と同様、「長岡市地域安全克雪方針策定業務」を受託した。市民への除雪安全の普及啓発を目的に「冬の地域防災！雪かき安全シンポジウム」及び「雪下ろし用安全帯実技講習会」を開催するとともに、雪下ろし事業者へのヒアリング、地域共助組織への安全帯の貸出と意見交換、長岡市地域安全克雪方針策定有識者会議を実施した。

十日町市からは昨年度と同様、「十日町市地域安全克雪方針策定業務」を受託した。十日町市の関連事業に関する実績データを更新し、十日町市地域安全克雪方針を完成させるとともに、地域共助組織及び雪下ろし事業者へのヒアリング、アンカー設置住宅の分布調査（「すまい雪おろし安全対策支援事業」実績データベースの整備）を行った。



雪かき安全シンポジウム（長岡市）



検討会議（十日町市）

## ②自主防災会・町内会の活動支援事業

### ○地域防災力強化支援事業【長岡市委託】

本事業は、自主防災会等の個別課題に応じた水害に対する共助体制の構築・強化を図るとともに、住民主体の実効性ある防災活動を推進することを目的に実施したものである。

長岡市内の8つの地域を対象に、当機構職員がアドバイザーとなって、以下のとおり、自主防災会における防災活動の促進、水害時の避難行動や避難体制、避難所開設・運営に関する指導・助言等を行った。

| 組織・地域名              | 活動回数（回） |
|---------------------|---------|
| 蔵王2丁目自主防災会          | 5       |
| 下々条町内会              | 3       |
| 黒条地区コミュニティ推進会議 防災部会 | 9       |
| 山田1丁目町内会            | 6       |
| 新町地区防災勉強会           | 8       |
| 東川口町会               | 2       |
| 草生津自主防災会            | 8       |
| 中島6-1自主防災会          | 4       |

### ○「防災出前講座」業務【新潟市東区委託】

本事業は、災害から自分や家族の命を守り、地域の防災力の向上及び防災活動の持続性を高めていくことを目的として、住民満足度の高い「防災出前講座」を実施したものである。

防災出前講座は、新潟市東区内の自主防災組織等の構成員が対象であり、開催地域の要望に応じて「地震・津波編」「水害編」「避難所運営編」の3つのメニューを用意し、当機構職員が講師を務め、合計23回開催した。また、地域から避難所運営訓練の現地指導の要望にも対応し、職員が訓練会場に向いて現地訓練の指導・サポートを行った。



新潟医療協同組合での講座



新潟市立東特別支援学校での講座

### ○自主防災組織フォローアップ研修業務【新潟市江南区】

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の防災訓練から遠ざかっている地域では、その間に役員等も交代し、地域における訓練のノウハウの継承が滞っている状況にある。

本業務は、このような自主防災組織やコミュニティ協議会等の地域防災活動を活発化させることを目的に、防災訓練実施に向けた研修を開催するとともに、自治会・町内会、自主防災組織が自ら地域防災活動を計画・実行する際の参考となる資料等（訓練を促進するためのチラシ、自主防災訓練メニューの手順書、説明動画）を制作したものである。

### ③避難行動・避難所運営研修事業

#### ○避難所運営体制連絡会（検討会）企画運営委託業務【新潟市委託】

本業務は、新潟市が目指す避難所業務の全体方針のもと、三者が顔を合わせる検討会を開催し、平時からの協力体制構築（避難所運営委員会の設立）を図るとともに、各避難所現地においてより実践的な検討を行うことを目的に講習会を実施したものである。

避難所運営委員会の立ち上げとその後の活動及び能登半島地震の振り返りをテーマに避難所運営体制連絡会（講習会）を開催し、新潟市8区で計17回、合計2,194名が参加した。

| 区   | 開催日       | 会期       | 参加者  |
|-----|-----------|----------|------|
| 北区  | 7/4       | 1日2回     | 252名 |
| 東区  | 7/9       | 1日2回     | 232名 |
| 中央区 | 9/20      | 1日2回     | 370名 |
| 江南区 | 8/21      | 1日2回     | 280名 |
| 秋葉区 | 7/31      | 1日2回     | 306名 |
| 南区  | 7/24      | 1日1回     | 213名 |
| 西区  | 7/17、7/18 | 両日とも各日2回 | 245名 |
| 西蒲区 | 8/1       | 1日2回     | 296名 |



新潟市東区の研修会



新潟市江南区 災害対応インタビュー

#### ○避難行動要支援者支援制度講習会・ワークショップ企画運営業務【新潟市】

本業務は、要支援者支援に取り組んでいる地域や取り組みたいと考えている地域を対象に、要支援者支援制度及び個別避難計画の説明と取組事例の紹介を行い、地域の制度に対する理解を深め、要支援者支援に取り組む意識の醸成を図ることを目的に実施したものである。

新潟市の4区（東区、江南区、秋葉区、南区）において、講習会及びワークショップを企画・開催した（計4回、参加人数は延べ442名）。



避難行動要支援者支援制度講習会



個別避難計画ワークショップ

### ○避難所運営ワークショップ事業【新潟市東区委託】

本事業は、避難所運営訓練を継続的に実施することが重要であるとの認識のもと、災害時の円滑な避難所運営の構築を目的として、指定避難所の運営に携わる地域住民等を対象に、避難所運営ワークショップを実施したものである。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、津波警報発令時、一部避難所において災害初動期の避難行動や避難所開設に混乱が見られたことを踏まえ、令和6年度のワークショップでは、災害発生直後の避難所開設を想定した「避難所開設初動訓練」と、開設後の運営体制構築を目的とする「避難所運営対応訓練」を市内全28か所の避難所を対象に実施し、初動対応及び運営力の向上を図った。



避難所運営シミュレーション（避難所開設初動訓練）

### ○「高めよう互近助力」地域でつくる避難生活運営体制事業【新潟市北区】

本事業は、住民主体の避難所運営体制（避難所運営委員会）を構築するため、ワークショップ及び訓練を企画・運営したものである。

令和6年度は松浜地区及び南浜地区を対象に、それぞれ4回のワークショップを実施し、課題の共有と解決に向けた検討を重ね、これを検証するために避難所運営訓練を行った。



松浜地区のワークショップ



南浜地区の避難所運営訓練

### ○避難所運営委員会にかかる講習会・訓練等企画運営業務【新潟市江南区】

本業務は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震に際し、江南区内の各地域における地震対応を振り返るとともに、今後の対策について検討・検証することを目的に実施したものである。

令和6年度は被害の大きかった曾野木地区（曾野木小学校避難所運営委員会）を対象に、避難所運営に関する講習会、ワークショップ（図上訓練）、避難所運営訓練を実施し、避難所運営委員会の手法や役割、重要性についての理解を深める機会を提供した。

また、能登半島地震発災時に実際に避難者対応を行った曾野木小学校避難所運営委員会の委員長へのインタビューを行い、当時の対応状況や課題などに関する事例紹介動画を制作した。この動画は、今後の研修会等で活用する予定である。



ワークショップ（図上訓練）



避難所運営訓練

### ○避難所運営体制整備業務【長岡市】

本業務は、市職員、施設管理者、地域住民による避難施設の現地確認を通じて、避難所施設ごとに地域版避難所運営マニュアル作成を推進し、避難所運営体制の整備に資することを目的に実施したものである。

令和6年度は黒条地区及び上川西地区をモデル地区として選定し、施設利用に関する基本的事項の共有と顔の見える関係づくりを進めた。次年度以降、市内全域への水平展開を図る予定である。



黒条地区の現地確認



上川西地区のワークショップ

### (3) 防災産業の推進

#### ○防災産業クラスター形成事業【新潟県委託】

本事業は、新潟県内企業、大学、防災関連機関等による防災産業のクラスターを形成することを目的として実施したものである。事業 5 年目にあたる令和 6 年度は、防災産業クラスター形成や検討のための各種セミナーや検討会、マッチングイベントなどを行うとともに、首都圏開催の展示会に出展した。

本事業において実施した主な事業は以下のとおり。

#### ◆キックオフフォーラム

令和 6 年度のいがた防災ステーションの事業予定を紹介するとともに、会員企業が主体となって実施したい取組（商品開発、販路開拓、検討会、勉強会など）を提案してもらい、企業主体の取組を展開するためのワークショップを実施した。



企業からの取組仲間募集発表の様子



ワークショップの様子

#### ◆被災地視察

被災地のニーズを把握し、商品やサービスの開発及び企業の災害対応を検討するきっかけとするため、いがた防災ステーションの登録企業に呼びかけ、能登半島地震被災地（珠洲市）を訪問するツアーを開催し、チーム中越がトイレカーを設置した地域拠点、災害ボランティアセンター、仮設住宅、ゴミ仮置き場、被災家屋の屋根修理現場などを訪問した。



地域拠点でのヒアリング



屋根修理現場での意見交換

#### ◆災害発生時に機能する体制構築検討会

能登半島地震では、新潟県内の複数の企業がそれぞれ支援活動を行った。しかし、各企業・団体が災害時にどのような支援活動（物資、サービス、ボランティア活動等）が可能かを事前に共有していなかったため、被災地のニーズに対して、自分たちのリソースを活かした支援につなげられなかったり、CSR 活動や PR につなげられなかったりしたケースもあった。

そこで、災害時に県内の企業・団体のリソースを活かした効果的かつ円滑な支援体制を構築するとともに、商品・サービスが活用される仕掛けについて検討を行った。

◆ にいがた防災ステーションあり方検討会

新ビジネス創出及び商品・サービスの販売展開を進める上で、現在稼働している「にいがた防災ステーション」が有益なプラットフォームとなるための機能や役割等をテーマに、会員企業による検討会を開催した。

◆ 海外展開セミナー

県内企業の海外進出を支援するため、海外展開の事例紹介や国際協力機構（JICA）の支援メニュー紹介を行うオンラインセミナーを開催するとともに、国際協力機構との相談の場をセッティングした。

◆ 自治体向け防災セミナー

自治体の防災力と災害対応力の向上を図るとともに、防災関連商品・サービスを展開する企業と自治体の接点を創出し、登録企業のビジネス機会の拡大を目的として、新潟県内の自治体を対象とした防災セミナーを開催した。本セミナーにおいては、能登半島地震の災害復旧・被災者支援の過程で生じた課題を紹介するとともに、民間企業が行った支援内容、直面した課題、災害時に円滑な支援を実現するための事前準備について報告を行った。



自治体向け防災セミナー 講義の様子



企業と自治体の個別相談会の様子

◆ 展示会への出展

首都圏で開催された危機管理産業展（RISCON TOKYO）及び東京インターナショナル・ギフトショーに参加し、新潟県産の防災関連商品を PR するとともに、今後の販路となる顧客リストの獲得等を行った。



危機管理産業展の様子



東京インターナショナル・ギフトショーの様子

◆全体フォーラム

令和 6 年度のにいがた防災ステーションの事業報告を行うとともに、主体的に活動を展開している企業からプロジェクトの紹介を行っていただいた。また、令和 7 年度に新潟で開催が予定されている「ぼうさいこくたい」や防災産業展といった次年度の予定事業、にいがた防災ステーションのホームページやオリジナルロゴの活用方法について説明を行った。



にいがた防災ステーション全体フォーラム

### 公3 持続可能な地域づくり

#### (1) 地域づくり人材育成

##### ①地域インターン事業

該当なし

##### ②地域おこし協力隊支援事業

##### ○新潟県地域おこし協力隊オンライン研修会（にいがたらボ）【新潟県委託】

本業務は、県内の地域おこし協力隊を対象に、自身の活動等に役立つ知識・ノウハウや定住した元隊員等の経験からの学びを得るとともに、地域おこし協力隊、元隊員、新潟県地域おこし協力隊サポートネットワーク等の協力隊関係者同士のつながりを強化することを目的に、県のバーチャルプレイス（ovice）を用いたオンライン研修、勉強会を実施するものである。

本業務を通じて以下の研修を企画・実施した。

##### 【地域おこし協力隊のキャリア】

|   | 日時                      | タイトル  | ゲスト   | 市町村  |
|---|-------------------------|---|-------|------|
| 1 | 11/12(火)<br>13:30~14:30 | わずか1年で集落の信頼を獲得。住民からの支援を受けて議員になった協力隊 OG ヒストリー                      | 魚野 ルミ | 村上市  |
| 2 | 11/15(金)<br>13:30~14:30 | 地域の食資源を活用した生業づくりと、地域からのオファーで様々な仕事を組み合わせる“多業定住”の協力隊 OG ヒストリー       | 清野 憂  | 小千谷市 |
| 3 | 11/22(金)<br>13:30~14:30 | 地域の資源を使ったベーカリー・カフェ&地域商社を立ち上げた協力隊ヒストリー                             | 柳沼 陽介 | 阿賀町  |
| 4 | 12/6(金)<br>13:30~14:30  | 集落での活動から、コワーキング、ゲストハウスを立ち上げ、リラクゼーションオーナーも担う、三足のわらじとして活躍する協力隊ヒストリー | 井比 晃  | 十日町市 |
| 5 | 12/3(金)<br>13:30~14:30  | 「土地無し・機械無し」からの協力隊新規就農ヒストリー  | 石渡 大夢 | 十日町市 |

##### 【テーマ別勉強会】

|   | 日時                     | タイトル                                     | ゲスト           | 市町村        |
|---|------------------------|--|---------------|------------|
| 1 | 1/9(木)<br>13:30~14:30  | イベント企画<br>～成功する地域イベントの作り方～               | 唐澤 頼充         | 長岡市        |
| 2 | 1/15(水)<br>13:30~14:30 | 移住促進はまちづくりへの入口<br>～人を巻き込む情報発信～           | 大塚 眞          | 十日町市       |
| 3 | 1/16(木)<br>19:00~20:00 | ファンドレイジング<br>～アイデアをカタチにする資金調達術～          | 水戸部 智         | 柏崎市        |
| 4 | 1/24(金)<br>13:30~14:30 | プロボノを活用した地域活性化<br>(事例) 魚沼市で実践する農作業シェアリング | 米本 晋也<br>阿部 巧 | 魚沼市<br>長岡市 |
| 5 | 1/30(木)<br>18:00~19:00 | 人が集まる場づくり<br>～人を惹きつける場づくりのコツ～            | 上田 夏子         | 長岡市        |
| 6 | 3/3(月)<br>13:30~15:00  | ～地域の魅力を発信する～<br>動画企画編集                   | 牛久保 拓也        | 小千谷市       |
| 7 | 3/11(火)<br>13:30~15:00 | ～地域おこし×生成 AI～<br>AI 活用入門講座               | 武田 知浩         | 長岡市        |

【交流会】

|   | 日時                     | テーマ        | タイトル              | ゲスト            | 市町村         |
|---|------------------------|------------|-------------------|----------------|-------------|
| 1 | 2/6(木)<br>13:00～14:00  | 就農         | 農業協力隊交流会          | 石渡 大夢          | 十日町市        |
| 2 | 2/27(木)<br>13:00～14:00 | ミドル・シニア    | オーバー45 交流会        | 米本 晋也<br>村上 一弥 | 魚沼市<br>糸魚川市 |
| 3 | 2/27(木)<br>10:00～11:30 | 起業研修参加者交流会 | 令和 5・6 年度研修参加者交流会 |                |             |

【移住促進研究会】

|   | 日時                      | タイトル                              | ゲスト                     |
|---|-------------------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 1 | 11/13(水)<br>13:30～15:00 | メンバー活動報告、それぞれの市町村の移住促進の取組紹介、意見交換等 | —                       |
| 2 | 11/25(月)<br>13:30～14:30 | 新潟県の移住促進における考え方、施策の紹介(県庁担当者)      | 八木 のぞみ (新潟県しごと定住促進課)    |
| 3 | 12/20(金)<br>13:30～14:30 | 首都圏の動向～ふるさと回帰支援センター勉強会(相談員)       | 鈴木 潤(にいがた暮らし・しごと支援センター) |
| 4 | 1/20(月)<br>13:30～14:30  | 県内市町村の取組～佐渡市事例紹介                  | 熊野 礼美<br>(合同会社 palette) |

○地域おこし協力隊活動サポート業務【出雲崎町委託】

本業務は、出雲崎町の地域おこし協力隊の受け入れ体制づくり、活動プログラム設計、募集・マッチング、協力隊着任後の活動サポートなど、地域おこし協力隊制度に関わるトータルサポートを行ったものである。令和 6 年度は 3 名の隊員の活動サポートおよび 2 件の募集案件組成を支援した。

3 名の隊員のうち関係人口の創出をテーマに活動する 2 名は、任期満了に伴い協力隊を卒業した。行政機能を補完する「まちのよろず屋」の立ち上げに取り組む 1 名はふるさと納税寄付額の増加に大きく貢献し、今後は空き家対策や移住相談などに重点的に取り組み、町役場でオーバーフローしている業務の受け皿（まちのよろず屋）づくりに本格的に着手することとしている。

また新規の案件組成にあたっては、出雲崎町として初の農業法人の立ち上げ及び運営をサポートする協力隊の募集を行い、令和 7 年 4 月 1 日より新たな協力隊（兵庫県・50 代）の隊員が着任した。さらに出雲崎町の伝統的な食文化「浜焼き」の継承に向けた協力隊の募集にあたっては関係者との調整、受け入れ体制づくりなどを進め、令和 7 年度中に募集を行う予定となっている。



出雲崎町の地域おこし協力隊の活動

### ○地域おこし協力隊活動サポート事業【糸魚川市委託】

本業務は、糸魚川市西海地区、高倉集落で受け入れている就農を目指す2名の地域おこし協力隊（ともに1年目）及び市企画定住課に配置された移住コーディネーターとして活動する協力隊1名（1年目）の活動サポートを行ったものである。

就農を目指す協力隊は、4月から本格的な農作業がスタートし、西海地区では水稲と枝豆、高倉集落では水稲と丸ナスという組み合わせで新規就農に向けた研修に従事している。2名とも受入地域の農家から手厚いサポートを受け、まずは1年間の一通りの農作業を経験し、2年目に差し掛かる令和7年度からは新規就農（特に地域の中でどのように収入源を確保していくか）に向けた準備を本格化していく予定である。

移住コーディネーターとして活動する協力隊は、着任後おおむね半年が経過し、移住支援というミッションに従事しながら子育て世代のコミュニティづくりなどの活動を行っている。



農業協力隊の活動



移住コーディネーターとして活動する協力隊



### ○地域おこし協力隊活動サポート業務【南魚沼市委託】

本業務は、令和4年度に着任した浦佐地域づくり協議会で活動する地域おこし協力隊の活動サポートを実施するとともに、現在活動する協力隊が令和7年10月で任期を終了することから、後任の協力隊の募集・マッチングを支援したものである。

現在活動している協力隊のサポートとしては、月1回開催する南魚沼市役所担当者、地域づくり協議会受け入れ担当者、地域おこし協力隊の三者による定例ミーティングに参加し、適宜受け入れ地域及び地域おこし協力隊に助言を行った。新規の募集に対しては募集記事の作成、応募者に対する現地体験などを企画・実施したところである。



地域おこし協力隊のミーティング



応募者の現地見学

### ○地域おこし協力隊活動サポート業務【魚沼市委託】

本業務は、魚沼市小出商店街の活性化に向けて魚沼市が地域おこし協力隊を募集していたが、応募が無かったため、改めて募集案件の見直し及び募集記事の作成を行ったものである。

本来のミッションである“商店街の活性化”というテーマに対し、『そもそもどういう状態になることが活性化なのか?』という点から商店街関係者と協議をスタートし、「閉まっているシャッターを一軒でも多く開けること」を目指すこととなった。このため空き店舗を活用して商売を始めたい方を地域おこし協力隊として募集し、商店街の店主等との関係性を育みながら3年後の開業を目指す活動計画を策定の上募集記事を作成し、令和6年12月から専用サイトに掲載し募集をスタートした。

この結果、令和7年に入ってから2名の応募があり、2名ともに小出商店街を訪れ、関係者と話をするなど現地見学を行い、令和7年5月に面接を実施する予定となっている。



募集記事のサムネイル



協力隊を募集する商店街の人たち

## (2) 地域づくり支援

### ①関係人口の創出・拡大事業

#### ○新潟暮らし魅力発見・発信プロジェクト企画・運營業務【新潟市委託】

本業務は、新潟市に愛着を持つ関係人口を増やし、卒業後の転出抑制や転入促進につなげることを目的に、新潟市内外の大学等に在学中の学生が新潟市内の地域活動を行う地域団体や住民と出会い、地域の暮らしや活動の体験を通して地域課題の解決に向けた活動を行ったものである。県内の学生が週末を使って3～4か月間地域に通う“通い型プロジェクト”を4地域で、県外の学生が3～6泊程度宿泊し活動する“滞在型プロジェクト”を2地域でそれぞれ実施した。

|     | 地域       | 受入団体                | 活動テーマ                                  | 参加者 |
|-----|----------|---------------------|--|-----|
| 滞在型 | 西蒲区（間瀬）  | 間瀬未来会議              | 地域探求×魅力発見 week！～地域の資源を見つけて活かす1週間～      | 2名  |
|     | 西蒲区（角田浜） | 角田地区コミュニティ協議会       | 海あり山ありイベントも活発な地域で暮らしを楽しむアイデアと情報発信を考える！ | 3名  |
| 通い型 | 秋葉区（小須戸） | 小須戸 ART プロジェクト実行委員会 | 歴史ある町屋をアートで活かす！人とまちが生む作品を残す・つなぐプロジェクト  | 3名  |
|     | 中央区（下町）  | 古町セッション、新潟海洋開発      | 高齢化の下町でわかものが集まる五軒長屋を活かしたシェアハウスづくり      | 3名  |
|     | 江南区（亀田）  | タウンウォークかめだ          | 亀田地域の記憶をアーカイブプロジェクト                    | 2名  |
|     | 西蒲区（中之口） | YAKKOTE             | 人と人をつなぐイベントを！ともに作り上げる地域密着型マルシェプロジェクト   | 4名  |



地域の人たちとの交流



古民家の改修作業



イベントのお手伝い



地域の散策

○にしかんワーキングツーリズム受入支援事業【新潟市西蒲区】

本事業は、株式会社おてつたびの仕組みを活用したプログラムを通して、県外から西蒲区内の事業者へ人の受け入れを行ったものである。

「おてつたびの仕組み」は、単なるアルバイトでもなく、ボランティアでもなく、地域の関係人口や将来的な移住につながるような新しい仕組みである。昨年度からの継続の事業であり、令和6年度は観光分野・飲食店等に範囲を広げ、事業者への説明・マッチング・実施を行った。

| 事業者名          | 説明・おてつたび登録    | マッチング・実施  |
|---------------|---------------|-----------|
| 笹祝酒造（酒造・販売）   | 4月初旬に説明・登録    | 5月、10月に実施 |
| KAIHOLO（カフェ）  | 4月初旬に説明       | 検討するも実施なし |
| ホテル大橋（温泉宿）    | 4月下旬に説明       | 検討するも実施なし |
| ドメヌショオ（ワイナリー） | 7月に問い合わせ・説明   | 検討するも実施なし |
| ネファラ（飲食店）     | KOKAJIYA さん紹介 | 2月に実施     |
| 燦燦カフェ（飲食店）    | 2月に説明         | 次年度実施希望   |
| YAKKOTE（地域団体） | 2月に説明         | 次年度実施希望   |



受入先の事業者と参加者との交流

## ②移住支援事業

### ○移住者受入態勢づくり研修業務【糸魚川市委託】

本業務は、糸魚川市小泊地区を対象に、地域外からの人材の受け入れに向けた住民意識づくりと体制づくりを目的に研修を行ったものである。

小泊地区では令和2年に「地域づくりプラン」を策定し、各種地域活動を推進してきた。これらの活動をさらに強力に推進するため、地域おこし協力隊の受け入れ意向を示しており、集落住民を対象とした勉強会を開催した。

一回目の勉強会では地域おこし協力隊を含む外部人材の受け入れ手法、受け入れのポイントなどをテーマに講演を開催するほか、参加者との意見交換を行い、二回目の勉強会では糸魚川市内の現役地域おこし協力隊・元地域おこし協力隊をゲストに協力隊目線で見た受け入れのポイントなどについて意見交換を行った。令和7年度も引き続き地域おこし協力隊の受け入れにあたっての話し合いを進め、活動プログラム等を作成し、募集へとつなげていく予定である。



外部人材の受け入れを学ぶ勉強会

### ○みらいづくり交流会企画運営業務【糸魚川市委託】

本業務は、糸魚川市が毎年開催する全市民を対象とした地域づくり勉強・交流会「みらいづくり交流会」において、令和6年度のテーマ「外部人材の受け入れ」に関わる講義・意見交換会等の研修を企画・実施したものである。

本研修の企画にあたっては、地域おこし協力隊の受け入れに興味関心がある地域・団体を掘り起こすことを目指し、市内で地域おこし協力隊を受け入れた地域関係者から事例発表を行い、その内容を踏まえた講義「外部人材受け入れのポイント」及びワークショップを開催した。

ワークショップでは「参加者自身の地域・団体に外部人材を受け入れるとしたら」をテーマに意見交換を行った結果、「すぐにも受け入れたい」として3地域、「これから地域・団体内で検討してみたい」として8地域の回答が得られ、この結果を受けて糸魚川市では個別に外部人材受け入れに向けた地域・団体との話し合いを進めていくこととしている。



事例発表



参加者同士の意見交換

## 3.2 収益事業等の報告

### 収1 災害・復興の経験と教訓の発信

#### ○長岡震災アーカイブセンターきおくみらいを活用した防災研修

きおくみらいでは、公1の「青少年の防災教育支援事業（メモリアル施設見学バス代補助）」以外に一般向け防災研修プログラムを提供しており、令和6年度は視察対応を延べ36件行った（前年度35件）。このうち25件は有料の研修プログラムである（前年度19件）。震災復興の過程で得た教訓をもとに新たな防災への取組が始まっている様子を紹介する「みらいの防災」プログラムを軸として、リクエストに応じたプログラムを提供・展開している。

- ・旅行代理店などからの申込（有料研修プログラム）・・・25件
- ・行政視察（長岡市議会等からの紹介・無料対応）・・・4件
- ・高校、大学生、町内会、議会、行政視察等（無料対応）・・・7件

### 収2 災害に強い地域づくり

#### (1) 防災士養成講座

##### ○防災士養成講座

自主事業として開催している「防災士養成講座」は、令和6年度は新たに加茂市会場が加わり、5会場での開催となった。受講者としては5会場合計で260名の申し込みがあった。

募集告知方法は昨年に続いて5会場を同時に募集する形とし、受講者の都合に合わせて申込可能なように工夫した。担当する講師は、新潟県内に在住する学識者、防災関係者を中心に依頼した。防災士資格取得試験には再試験を含め257名が合格した。

[加茂市会場] 令和6年度防災士養成講座（新設）

- ◆開講日時 令和6年11月9日（土）、10日（日）
- ◆会場 加茂市役所・会議室
- ◆受講費用 加茂市募集（20名）の受講料を加茂市が負担  
一般 62,000円（教本代、受験料、登録料含む）  
学生 37,000円
- ◆受講者数 35名（県央工業高校の生徒2名を含む）
- ◆合格者数 34名（97%）\*1名は次年度へ繰り越し



[村上市会場] 令和6年度村上市防災士養成講座

- ◆開講日時 令和6年11月16日（土）、17日（日）
- ◆会場 村上市生涯学習推進センター・研修室
- ◆受講費用 村上市募集（25名）の受講料を村上市が負担  
一般 62,000円（教本代、受験料、登録料含む）  
学生 37,000円
- ◆受講者数 38名
- ◆合格者数 38名（100%）



- [新潟市会場] 令和 6 年度防災士養成講座
- ◆開講日時 令和 6 年 11 月 23 日 (土)、24 日 (日)
  - ◆会 場 新潟大学五十嵐キャンパス・講義室
  - ◆受講費用 62,000 円 (教本代、受験料、登録料含む)  
学生 37,000 円
  - ◆受講者数 81 名
  - ◆合格者数 81 名 (100%)



- [柏崎市会場] 令和 6 年度 (第 9 期) 防災士養成講座
- ◆開講日時 令和 6 年 11 月 30 日 (土)、12 月 1 日 (日)
  - ◆会 場 柏崎市役所・多目的室
  - ◆受講費用 柏崎市募集 (50 名まで) の受講料・教本代を  
柏崎市が負担 (受験料・登録料を個別徴収)  
一般 62,000 円 (教本代、受験料、登録料含む)  
学生 37,000 円
  - ◆受講者数 58 名
  - ◆合格者数 56 名 (97%) \*2 名は次年度へ繰り越し



- [新発田市会場] 令和 6 年度防災士養成講座
- ◆開講日時 令和 6 年 12 月 14 日 (土)、15 日 (日)
  - ◆会 場 新発田市交流センターあおり館
  - ◆受講費用 62,000 円 (教本代、受験料、登録料含む)  
学生 37,000 円
  - ◆受講者数 48 名
  - ◆合格者数 48 名 (100%)



## (2) 講師等業務

東京電力ホールディングス、日本防災士機構、くびき野 NPO サポートセンター、新潟県土地家屋調査士会、新潟市立関屋中学校、ネクスコ・サポート新潟、長岡市社会福祉協議会から依頼を受け、防災講座等を実施した。

### 収3 持続可能な地域づくり

#### ○中山間地域等直接支払制度 小千谷市広域協定運営委員会事務受託

##### 【小千谷市広域協定運営委員会委託】

本業務は、「中山間地域等直接支払制度」を活用し、棚田地域での営農や地域運営の活動を行う 31 の集落の共同活動体の事務、運営を行ったものである。

各集落が市へ提出する書類の作成請負、広域協定の活動としての会議運営、営農のサポート活動（粒穀判別機の導入、農業研修生の受け入れ、研修会の実施）などを実施した。また、令和 6 年度は初の試みである「おぢや棚田米コンテスト」を開催し、市内稲作農業者の意欲とブランド力の向上を目指した。



集落協定での会議



おぢや棚田米コンテスト

#### ○ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」【小千谷市広域協定運営委員会委託】

本業務は、小千谷市広域協定運営委員会からコーディネート業務を受託して「農業研修生」の受け入れを行ったものである。

令和 4 年度から継続となった研修生 1 名を引き続き 1 つの集落で受け入れ、集落での共同活動、米づくり、市内園芸農家への手伝いなどの活動を行った。



農業研修生の活動

### ○Work Rice【柏崎市高柳農業振興会委託】

本業務は、柏崎市高柳町内で令和4年度に立ち上げた地域貢献ツーリズムプログラム『Work Rice』（中山間地域の米農家が日常的に行う“農作業”、パッケージデザインやライティングなどの“クリエイティブな作業”のお手伝いし、そのお礼に農家が栽培したお米をいただくプログラム）を実施したものである。

令和6年度は延べ28人の参加があり、農作業のサポートを行った。このほか都内企業（食品製造・販売、飲食）の社員研修の受け入れを行い、2か月に1回程度の頻度で毎回5～10人の社員が高柳地域を訪れ、農作業や地域行事のお手伝いを行った。また、令和7年度からは同社が使用する米（米粉）の契約栽培をスタートすることとなった。

このプログラムは3年目を迎え、Work Riceの参加をきっかけに農家と参加者が直接連絡を取り合う関係性が生まれ、事務局を通さずに農作業の手伝いに来る人たちが見られるようになっている。



Work Rice 参加者による農作業のお手伝い

### ○Work Rice【入広瀬田っぼんしょ委託】

本業務は、上記の柏崎市高柳と同様の仕組みにより、魚沼市入広瀬地区において『Work Rice』を実施したものである。

5～10月までの全9日間、延べ9名の参加者があり、田植えや草刈りなどの手伝いを行った。そのうちの数名はリピーターとして継続的に入広瀬に通い、農作業の手伝いをするといった関係が築かれている。



Work Rice 参加者による農作業のお手伝い

## ○地域おこし協力隊活用促進事業【里山プロジェクト委託】

本事業は、新潟県地域政策課の「新潟県地域おこし協力隊活用促進業務」を、十日町市の一般社団法人里山プロジェクト（受託元）と協働して実施したものである。

本事業の背景には、新潟県内では 231 名の地域おこし協力隊が活動しており（令和 7 年 3 月 1 日時点）、受け入れ体制の整備、協力隊の活動及び退任後に向けたサポートの充実が求められている現状がある。そこで本事業では、地域おこし協力隊及び市町村担当者へのサポートを行うため、以下の業務を実施した。

- 地域おこし協力隊サポート体制の整備
- サポート人材の OJT 研修
- 先進地視察ツアー
- Job インターン
- 起業研修
- 初任者研修・キャリア研修

昨年度からの取組によって、県内各地に地域おこし協力隊 OB・OG を中心とした現役隊員のサポート組織が設立されるとともに、新潟県の地域おこし協力隊の特徴や価値観を明文化して共有するための素地も生まれた。



キャリア研修



先進地視察ツアー



起業研修



Job インターン

### 3.3 既存施設活用による支援

長岡市山古志に所在するロータリーハウスの維持・管理を行った。

ロータリーハウスについては、大学関係機関、地元 NPO 法人、地域づくり関連企業、長岡市、新潟県等と意見交換を行いながら、施設の譲渡等を含めた抜本的な検討を進めた。その結果、譲渡先となる候補団体を見出すことができ、今後の施設活用の方向性、運営体制、具体的な手続き等について意見交換を行った。ロータリーハウスに関する維持管理費は、既に当該団体が負担している。